

## 議会報告会グループA

テーマ「ごみの減量について」 参加者7人

### テーマに対する主なご意見

#### 《行政の取り組み》

- ・ ゴミ袋の値段を高くしてはどうか。ゴミ袋の値段が瀬戸市、長久手市で違うがどうか。
- ・ 事業系ごみは現在1キログラム当たり20円だが高くする。行政はお店や会社へ働きかけ、事業系ごみ処理についても取り組みを進めるべき。
- ・ 晴丘センターは10年間延命できるがその先どうするかを知りたい。
- ・ 長久手市独自でごみの処分場を市内に建設することは可能か。
- ・ ごみの減量は他市町のように細く分類しないと解決しないのではないか。雑誌・本・雑がみの分別が分かりにくい。

#### 《市民の取り組み》

- ・ ごみの分別・減量は家族全員で取り組むべき。
- ・ 燃えるごみ、燃えないごみなどの分別をよく理解し取り組むべき。
- ・ 分別を曖昧にすると燃えるごみが増えると思う。
- ・ 生ごみが燃えるごみの組成調査で43.9%あると知った。生ごみを餌にカラスが来るので減らす取り組みを考えて欲しい。

#### 《広報について》

- ・ ごみ分別の広報（ひまわりネットワーク等）をもっとすべき。雑がみ、プラスチック製容器包装の分別がよくわからない。
- ・ ごみ問題に興味がない人に知っていただく方法を考えて欲しい。
- ・ ごみ処理にお金がかかることをもっと市民に知らせるべき。

#### 《4Rについて》

- ・ 家庭では周知されてきているのではないかと思う。
- ・ スーパーなどの過剰包装を減らして欲しい。
- ・ 資源回収を自治会で始めた。回収袋で回収することで雑がみを分別することができた。
- ・ 食品ロスの問題はごみ減量にとって重要である。

## 今後の課題について

尾張東部衛生組合議会は瀬戸市・尾張旭市・長久手市から5名ずつ議員を選出し、組合議会が設置され、税金で運営される三市の共同事業であることはあまり知られていません。知られていない理由は、自治体の責務はごみの収集と運搬に限られているからです。晴丘センター（ごみ焼却施設）は平成4年に稼働し、建設から27年が過ぎ、焼却炉が老朽化し、今年度から延命化工事が始まり、本年5月から51億円を投じて、3年の工期で工事に着手しています。延命化工事と言っても、10年間しか延命できず、その後の建て替え200億円から300億円の費用がかかることもあまり知られていません。

私たちにできることは家庭から出るごみの分別を徹底し、特に資源になるものはリサイクルルートにのせて、減量することです。また、ここ数年大規模商業施設がオープンしたため事業系ごみが急増しています。

これらの現状に対して、市へ以下の3点を提言していきます。

- 1 焼却場の老朽化への対応についての情報を市民と共有すること。
- 2 家庭からのごみの減量のため、リサイクルの徹底指導を求める。
- 3 行政から事業者へ、ごみ減量について実効性が伴う指導を求める。